

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/15

主要国株価睨みの展開に

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円		米経済指標・要人発言を眺めつつ	2 - 3
		予想レンジ: 75.80 ~ 79.00 円	
カナダ/円		リスク回避ムード後退	4 - 5
		予想レンジ: 76.90 ~ 79.90 円	
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 8/8~12の主な推移

※4時間足



<p>8/8 Monday</p>	<p>週末、格付け会社S&Pが米国を「AAA」から「AA+」へ格下げした事を受け、ドル/円はオープン直後に77.90円まで下落。その後、7カ国(G7)財務相・中銀総裁が緊急電話会合の声明で「為替市場での動きについて緊密に連絡を取り合う」と発表すると反発した(①)が、格付け会社ムーディーズが「介入によって円高を止めることは出来ない」との見解を示すと反落。夜に米国株安を受けてクロス円が大きく値を下げると、ドル/円は77.50円まで値を下げた。</p>
<p>8/9 Tuesday</p>	<p>日経平均株価が下落しクロス円も値を下げると、ドル/円も連れ安。11時46分頃に野田財務相が「手をこまねいているわけにはいかない。市場動向に注視し、適切に対応」などを発言すると、介入観測を絡めながら77.83円まで急騰する場面もあったが、実弾介入は出ず、すぐに上げ幅を縮小した。27時15分頃、米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明にて「異例の低金利を『少なくとも2013年半ばまで』維持する」「米経済見通しの下ぶれリスクが高まった」「追加の政策手段を必要に応じて使用する準備がある」などとの見解を示すと、超低金利政策の長期化観測が広がり、ドル/円は乱高下しながらも76.70円まで値を下げた(②)。ただ、その後にNYダウ平均が大幅反発となり、クロス円が上昇すると、ドル/円も連れて反発した。</p>
<p>8/10 Wednesday</p>	<p>NY市場からのドル高・円安の流れを引き継ぎ早朝に77.30円まで上昇したが、その後は失速。高寄りした日経平均が伸び悩みクロス円が軟化したことや、北朝鮮による韓国領へ向けた砲撃報道などを背景に軟調な推移となった。76.40円前後では底堅さを保っていたが、「フランスが格下げされるかもしれない」との噂が広がり、ユーロ/円が大きく値を下げると、僅かながらも連れ安し、22時過ぎに76.34円の安値をつけた(③)。もっとも、NY市場中盤以降はクロス円やドルストレートの動きが複雑にドル/円に影響を及ぼし、引けにかけて76円台後半までドル高が進んだ。</p>
<p>8/11 Thursday</p>	<p>朝、野田財務相が「一方的に偏った円高の動きが続いている」「国際社会と連携しながら市場を注意深く見ていく」などと発言すると、円売り介入への期待感からドル/円は77.23円まで上昇したが、前回介入の入った仲値公示後になっても動きがなかったことで、ドル/円は上げ幅を縮小した。夕方に入るとジリ安となり、ドル/円は76.30円の安値をつけた(④)が、直後に日銀のレートチェックの噂などを背景に77.20円まで再び急騰した。ただし、この時もやはりすぐに上げ幅縮小。21時30分発表の米新規失業保険申請件数が39.5万件と予想(40.5万件)より良好な結果になると、ドル/円は77.00円目前まで上昇した。</p>
<p>8/12 Friday</p>	<p>欧州市場序盤はスイス/円でのスイスフラン安・円高、中盤はユーロ/ドルでのユーロ高・ドル安の進行の影響を受け、ドル/円は76.51円まで値を下げた(⑤)。しかし、21時30分発表の米7月小売売上高において自動車を除いた数値が前月比+0.5%と予想(+0.3%)を上回り、NYダウ平均先物が上昇したことを受けてドル/円は反発。26時過ぎにかけて76.89円まで上昇した。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

先週のドル/円相場は76.30円～78.47円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約2.0%の下落(ドル安・円高)となった。週前半に大きく値を下げる展開となったが、その後は76円付近では底堅く推移した。

今週の米国では8月ニューヨーク連銀製造業景気指数(15日)、7月住宅着工件数および7月建設許可件数、7月鉱工業生産(16日)、7月生産者物価指数(17日)、7月消費者物価指数と週次の新規失業保険申請件数(18日)と、19日を除いて主要経済指標の発表が予定されている。また、複数の米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーの発言機会もあり、手掛かり材料は多めの週となっている。この他、欧州でも、ドイツとユーロ圏の国内総生産(GDP)の発表(16日)など重要指標の発表がある。これらを手掛かりにしつつ、主要国の株価がどう動くかが注目される。株価が堅調さを取り戻し、金融市場全般的にリスクを積極的に取るムードが強まれば、これまでリスク回避の動きの中で相対的に買われてきた円は売り優勢に転じると考えられる。一方、リスクに対して敏感な相場が続けば、ドル/円の底這い相場が続く可能性がある。引き続き戦後最安値76.25円付近での円売り介入に警戒しながら、相場のムードをうかがう流れになろう。ただ、引き続き本邦政府・日銀による円売り介入やレートチェック、そして介入の憶測を呼ぶようなまとまった円売りなどがドル/円相場の波乱要因となりそうだ。

ドル/円日足チャートをボリンジャーバンドでみると、介入が入った8月4日を除き、7月後半から-2.0σをサポートに推移している(執筆時点:76.08円)。今週もひとまずはこのライン付近では底堅さを見せるとみる。(ジェルベズ)

(予想レンジ:75.80～79.00円)

CAD/JPY

カナダ/円 8/8~12の主な推移



8/8 Monday	前週末5日のNY市場終了後に格付け会社S&Pが米国の格付けを最上級の「AAA」から「AA+」に引き下げた事を受けて、米株価指数先物が大幅に下落して始まると、カナダ/円は売り優勢となった。さらに、アジア・欧州・米国と株安の連鎖が広がり、NYダウ平均株価が引け間際に下げ幅を広げ一時600ドルを超える下落となると、カナダ/円は78.10円まで下落した。(①)
8/9 Tuesday	中国7月消費者物価指数が前年比+6.5%と上ぶれた事を受けて、同国の利上げ懸念から原油価格が急落すると、資源国通貨売りが強まった。しかしその後、この日行われる米連邦公開市場委員会(FOMC)で、追加緩和策が発表されるとの期待が高まり、アジア株が下げ幅を縮小するとカナダ/円も反発。欧州株の下落につれて一時76.90円まで下げる場面もあったが、米FOMC声明で、現在のゼロ金利政策を少なくとも2013年半ばまで続ける方針が示された事を好感してNYダウ平均株価が400ドルを超える大幅反発となると、カナダ/円は79.09円まで上昇した。(②)
8/10 Wednesday	フランス格下げの噂や、大手仏銀が公的支援を要請するとの噂から金融株主導で、欧州株が大きく下落するとカナダ/円は売り優勢となった。大手格付け会社3社はいずれもフランスの格付けが「安定的」である事を確認したが、市場の動揺は収まらずNYダウ平均株価が寄り付きから300ドルを超える下落となると、カナダ/円は76.85円まで下落した。(③)
8/11 Thursday	前日に破綻の噂から大幅下落となっていた大手仏銀株が高寄り後に値を崩すと、欧州株全体が下落に転じた。これを受けてリスク回避の動きが強まると、カナダ/円は3月17日以来となる76.79円の安値を付けた。しかしその後、NYダウ平均株価が、昨日の下落の反動や米新規失業保険申請件数の減少を背景に、大幅に上昇すると、カナダ/円も77.97円まで反発した。(④)
8/12 Friday	米7月小売売上高(除自動車)が前月比+0.5%と予想(+0.3%)を上回った事を好感して、時間外のNYダウ先物が上げ幅を拡大するとカナダ/円は77.80円台に上昇したが、米8月シガン大消費者信頼感指数・速報値が54.9と予想(62.0)を大きく下回ると77.20円台まで下落した。しかしその後は、NYダウ平均株価が堅調に推移し一時200ドル超の上昇となると、カナダ/円は77.80円台を回復した。(⑤)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は76.79円～79.90円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約3.3%の下落(カナダドル安・円高)となった。この間、NYダウ平均株価は約1.5%の下落、原油価格(WTI期近物)は約2.2%の下落となっている。NYダウ平均株価については最大約7.3%もの大幅下落となる場面があったものの、11日と12日に大きく反発しており、パニック的な株安局面は一服したようだ。

今週のカナダ/円相場は、NYダウ平均株価をはじめとする主要国の株価がどの程度反発出来るかが焦点となろう。株価に与える影響という観点から、米国で発表される7月住宅着工件数(16日)、7月鉱工業生産(16日)、週次の新規失業保険申請件数(18日)、7月中古住宅販売件数(18日)などの主要経済指標に注目しておきたい。これらの経済指標に悪化が目立てば、カナダ/円にも下落圧力がかかる事になるが、現在のところ住宅着工件数以外は横ばいから改善が見込まれており、米国景気の減速懸念から株価が再び大きく下落する展開とはなりにくいだろう。今週のカナダ/円は、先週の下落の起点となった79円台後半を目指して上昇する展開が予想される。(神田)

(予想レンジ: 76.90～79.90円)

経済指標カレンダー (8/15~17)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/15 (月)	08:50	○	(日) 第2四半期GDP・一次速報 [前期比]	-0.9%	-0.6%
		○	(日) 第2四半期GDP・一次速報 [前期比年率]	-3.5%	-2.5%
	21:30	○	(米) 8月ニューヨーク連銀製造業景気指数	-3.76	0.5
	22:00	○	(米) 6月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+236億USD	—
	22:00	○	(米) 6月対米証券投資 [ネットフロー合計]	-675億USD	—
	23:00	○	(米) 8月NAHB住宅市場指数	15	15
	8/16 (火)	10:30		(豪) RBA議事録	—
15:00	○	(独) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+1.5%	+0.5%	
	○	(独) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+4.9%	+2.9%	
17:30	◎	(英) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.1%	-0.2%	
	◎	(英) 7月消費者物価指数 [前年比]	+4.2%	+4.4%	
17:30		(英) 7月小売物価指数 [前月比]	±0.0%	-0.2%	
18:00	○	(ユーロ圏) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.8%	+0.3%	
	○	(ユーロ圏) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+2.5%	+1.8%	
18:00		(ユーロ圏) 6月貿易収支	±0.0億EUR	—	
21:30	◎	(米) 7月住宅着工件数	62.9万件	60.8万件	
21:30	○	(米) 7月建設許可件数	61.7万件	60.6万件	
21:30		(米) 7月輸入物価指数 [前月比]	-0.5%	-0.1%	
22:15	○	(米) 7月鉱工業生産 [前月比]	+0.2%	+0.5%	
22:15		(米) 7月設備稼働率	76.7%	76.9%	
8/17 (水)	07:45		(NZ) 第2四半期生産者物価指数 [前期比]	+1.7%	+0.8%
17:00			(ユーロ圏) 6月経常収支	-52億EUR	—
	◎	(英) BOE議事録	—	—	
17:30	◎	(英) 7月失業率	4.7%	4.7%	
17:30	◎	(英) 7月失業保険申請件数	+2.45万件	+2.00万件	
18:00		(ユーロ圏) 7月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.5%	+2.5%	
20:00		(南ア) 6月実質小売売上高 [前年比]	±0.0%	—	
21:30	○	(米) 7月生産者物価指数 [前月比]	-0.4%	+0.1%	
	○	(米) 7月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+0.3%	+0.2%	
	○	(米) 7月生産者物価指数 [前年比]	+7.0%	+7.0%	
	○	(米) 7月生産者物価指数 [コア: 前月比]	+2.4%	+2.3%	

経済指標カレンダー (8/18~19)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/18 (木)	08:50	○	(日) 7月通関ベース貿易収支	+686億円	+693億円
	14:00		(日) 6月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	108.6	—
			(日) 6月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	103.2	—
	17:30	○	(英) 7月小売売上高指数 [前月比]	+0.8%	+0.2%
		○	(英) 7月小売売上高指数 [前年比]	+0.2%	—
	18:00		(ユーロ圏) 6月建設支出 [前月比]	-1.1%	—
	21:30	◎	(米) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.2%	+0.2%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [コア: 前月比]	+0.3%	+0.2%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [前年比]	+3.6%	+3.3%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [コア: 前年比]	+0.6%	+1.6%
	21:30	◎	(米) 8/12までの週の新規失業保険申請件数	39.5万件	—
	21:30		(加) 7月景気先行指数 [前月比]	+0.2%	—
	21:30		(加) 6月卸売売上高 [前月比]	+1.9%	—
	23:00	○	(米) 8月フィラデルフィア連銀景況指数	3.2	4.0
23:00	○	(米) 7月中古住宅販売件数	477万件	490万件	
23:00		(米) 7月中古住宅販売件数 [前月比]	-0.8%	+2.7%	
23:00		(米) 7月景気先行指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%	
8/19 (金)	15:00		(独) 7月生産者物価指数 [前年比]	+5.6%	+5.3%
	20:00		(加) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.7%	+0.2%
			(加) 7月消費者物価指数 [前年比]	+3.1%	+2.8%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com